安富町魅力発信紙

やすとみびより

vol.7



ひまわりが鮮やかに咲く季節、
森林のプロフェッショナルを訪ねた。

LOOK!
やすとみびより
Website & Instagram
随時更新中！

Website　Instagram

2021年9月発行
発行者：地域おこし協力隊
白井 千夏

※取材時は感染症対策に万全を期しております。取材をさせて頂く皆様には撮影時の一瞬のみマスクを外して頂きました。

中はりま森林組合 姫路支所

姫路市の森林面積の約60％が市北部地域の安富町と夢前町に広がっています。安富町は、自然豊かで昔から林業が盛んな町です。子供の頃に植林や下刈作業を手伝ったことがある、という方も多いのではないでしょうか。今回は、安富町の森林・林業について中はりま森林組合 姫路支所長の川西 孝行さんにお話を伺いました。

現在、姫路支所の職員は13名。20～70代までの幅広い年代の方々が日々森林や林業にまつわるお仕事をされています。管轄区域は姫路市全域で、その事業内容はインターンシップの受入や就業支援等を行う"指導部門"、造林や災害対策等を行う"森林整備部門"、木材の販売や加工を行う"販売・加工部門"、苗木や薬剤、林業資材の販売を行う"購買部門"と多岐に渡ります。

「森林・林業に関する仕事については、すべて対応・実施できるよう頑張っています」と川西さんがお話してくれました。









▲写真上：姫路支所の建物は旧富栖村の役場だったのだそう。白い外壁に石造りの玄関ポーチはレトロで可愛いらしい雰囲気です。▲写真左下：支所内の格天井。天井は高く開放的で、木の温もりと凹凸の繊細さを感じました。▲写真中央下：支所の中心にある中庭。コの字状に作られた回廊は風情があります。▲写真右下：支所横の立派な倉庫。富栖杉を使用して建てられ、太い柱と梁は近くで見ると迫力満点！









取材当日はあいにくの雨模様。作業員の皆さんは姫路支所にて薪割り作業をされていました。▲写真上・右下：切り出してきた木を適当な大きさにチェーンソーで切っている様子。薪となる木は里山整備で危険木等の伐採時に出た広葉樹を使用しているそう。▲写真左下：薪割り機で木を更に小さくカットしている様子。お二人の息がピッタリでした。▲写真下中央：薪用に切り出された木を数本ずつに分けて針金で丁寧に束ねる様子。乾燥させて出来上がった薪はイベントで使用されるそうです。

「昭和55年頃、木材価格はピークでスギ丸太39,000円/㎥ほどでしたが、現在は輸入材の影響等で13,000円/㎥程度で木材価格の低迷が続いています。これは、現在の価値に換算すると当時の約1/10の値段です。それでも、少しでも森林所有者の皆様に還元できればとコスト削減などの努力を行っています。同時に若い人や都心の人に、もっと山の魅力を知って欲しいと思い森林や林業、富栖杉のPRも積極的に行っています」「また、昨今の台風被害や豪雨による土砂災害を受けて土砂流失を防ぐため間伐木利用土留工の設置や針葉樹と広葉樹の混合林整備など、災害に強い森林づくりに取り組んでいます」と川西さんが語ってくれました。









安富町北部地域で採れる「富栖杉」は心材が淡赤色で木目が美しいのが特徴。「明治末期から大正・昭和と安富町の林業に携わった先人たちが、九州地方から苗木を持ち帰り選抜育苗と研究を重ねて病気に強く優良な杉木をつくり出しました。それが富栖杉です」と川西さんが教えてくれました。現在、富栖杉は、姫路駅周辺施設や安富こども園などの公共施設でも使用され親しまれています。

▲写真上・左下：姫路駅キャッスルビューの様子。床や壁に富栖杉がふんだんに使用されており温もりのある空間が広がっています。▲写真下中央・右下：所々に設置されたベンチと床面。多くの人に使い込まれて飴色になった木目もまた味があります。

NEWS

第11回 ふるさとかかしサミット 開催

町の暮らしを支える各種団体が出展！

かかしバス（神姫バス）、移動販売車（コープこうべ）、消防車（安富町消防団）など

日時：2021年11月7日(日) 10時~15時

場所：奥播磨かかしの里

ふるさとかかし

※イベントの最新情報はWebsiteやSNSを御覧ください。

編集後記

まだ夏の暑さが厳しい頃、中はりま森林組合 姫路支所を訪ねました。鉄鋼業が盛んな街で育った私にとって森林や林業はあまり馴染みのないものでしたが、お話を伺い安富町と森林や林業との関わりを知れたことは大変興味深く、また身近に感じることが出来ました。取材にご協力頂きありがとうございました。

※前回のやすとみびよりvol.6の掲載内容に誤りがありました。次のとおり訂正をしお詫び申し上げます。（誤)あじさい園→(正)あじさいの里